

「京都リカレントステイ」プログラム シラバス

日 時 : 令和元年 12 月 13 日 (金) 13 : 30～15 : 30

講 師 : 田中 典彦 佛教大学学長

テ ー マ : 人生 100 年時代の生き方

狙 い

AI 化が進み、やがてロボットとの共生の時代を迎えると言われています。それでも生きてゆくのは人間なのです。今、改めて「人間とは何か」を問い直す必要があると思います。眼をひっくり返して私自身を見つめてみましょう。
仏教の思想にも触れながらテーマについて語ってみます。

講師プロフィール

1944 年 (昭和 19 年) 生まれ。大阪府出身。孝恩寺住職
経歴
佛教大学大学院文学研究科仏教学専攻博士後期課程単位取得満期退学、インド国立ヴィシュバ・バーラティ大学哲学科 Ph. D コース単位取得満期退学。専門分野は、インド六派哲学、原始仏教思想、仏教と自然。
佛教大学四条センター長、佛教大学総合研究所長、佛教大学副学長を経て、2015 年 4 月に佛教大学学長就任。2019 年から 2 期目。2018 年 4 月からは佛教教育学園学園長、佛教大学附属幼稚園園長も務める。
趣味は草花の栽培。

講義概要

仏教思想の中に世界観・人間観・人生観を求めてみる。日本文化の根底を築いてきたものであるからである。そしてそれは優にこれからのわれわれの生き方に示唆を与えるものであることを理解し、新たな視点に気付いていただけるであろう。

参考図書

水野弘元 著『仏教の基礎知識』春秋社
同 上 『仏教要語の基礎知識』同上

備 考

--

「京都リカレントステイ」プログラム シラバス

日 時 : 令和元年 12 月 13 日 (金) 15 : 30～17 : 30

講 師 : 八木 透 佛教大歴史学部教授

テ ー マ : 京都の初冬のまつりと民俗信仰

狙 い

霜月、すなわち旧暦 11 月、京都では宮中の影響を受けたと思われる数々の火まつりが行われる。その代表例が御火焚と大根焚である。霜月にはなぜ火を用いたまつりが必要だったのか。霜月とはいかなる意味を有する月であったのか。京都ならではの年中行事の特質について解説する。

講師プロフィール

1955 年 (昭和 30) 年 京都生まれの京都市人 生粋の京都人
同志社大学文学部卒業 佛教大学大学院博士後期課程修了 博士 (文学)
現在、佛教大学歴史学部教授 専門は民俗学・家族史
世界鬼学会会長、日本民俗学会元理事、京都民俗学会理事・事務局長、祇園祭綾傘鉾保存会理事 京都府および京都市文化財保護審議委員 ほか 多数歴任
毎年祇園祭山鉾巡行および五山送り火には実況解説役としてテレビ出演している。

講義概要

京都で霜月に行われる御火焚と大根焚を事例としながら、霜月・冬至・来訪神・大師講・新嘗祭をキーワードとして、京都の初冬の行事の民俗的意味と、その背後に見え隠れする人々の祈りの心について考えてみたい。

参考図書

八木 透『京のまつりと祈りーみやこの四季をめぐる民俗』2015 年、昭和堂
八木 透『日本の民俗信仰を知るための 30 章』2019 年、淡交社

備 考

--

「京都リカレントステイ」プログラム シラバス

日 時 : 令和2年1月17日(金) 13:30~15:30

講 師 : 大谷 栄一 佛教大学 社会学部教授

テ ー マ : 京都の地域コミュニティと伝統行事

狙 い

京都は一年間を通じて、さまざまな伝統行事が行われている「まち」である。そうした伝統行事の多くは地域コミュニティに根ざしており、地域の住民によって支えられている。しかし、京都も現在、人口減少や少子高齢化の傾向が顕著で、伝統行事の持続可能性が問題化している。

そこで、この講義では、祇園祭、五山送り火、地蔵盆などの伝統行事の現状を映像や写真、調査データを用いて解説することで、京都の地域コミュニティと伝統行事をめぐる問題や課題を明らかにする。京都の伝統行事の持続可能性について考えるとともに、伝統行事を通じて京都の地域コミュニティのあり方を考えることも、本講義のねらいである。

講師プロフィール

1968年、東京生まれ。東洋大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程修了。博士(社会学)。専門は宗教社会学、近代仏教研究。著書に『近代日本の日蓮主義運動』(法蔵館、2001年)、『地域社会をつくる宗教』(共編著、明石書店、2012年)、『人口減少社会と寺院』(共著、法蔵館、2016年)、『近代仏教スタディーズ』(共編著、法蔵館、2016年)、『ともに生きる仏教——お寺の社会活動最前線』(編著、ちくま新書、2019年)など多数。

講義概要

この講義では、①京都の地域コミュニティの現状、②京都の伝統行事の現状、③京都の地域コミュニティと伝統行事の関係について解説する。

①については、「町内」や「元学区」と呼ばれる京都の地域コミュニティ、「町内会」や「自治連合会」と呼ばれる「地域運営アソシエーション」を取り上げて説明する。

また、②については祇園祭(やその他の祭り)、五山送り火、地蔵盆が地域コミュニティや地域運営アソシエーション、その他の運営アソシエーションによって実際にどのように運営されているのかを説明する。

以上を踏まえて、③について検討する。

映像や写真を用いて、その行事の様子をご覧いただくとともに、講師が学部のゼミで行った調査データも用いながら、授業を行う。また、受講者同士でグループディスカッションを行うなど、アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学び)の手法も取り入れることで、受講者の理解が深まることを期待したい。

参考図書

鯉坂学・小松秀雄編『京都の「まち」の社会学』（世界思想社、2008 年）
八木透『京のまつりと祈り』（昭和堂、2015 年）
村上紀夫『京都 地藏盆の歴史』（法藏館、2017 年）

備 考

参考図書は購入する必要はありません。
資料は授業時に配布します。